

## 個別支援に向けた校内体制づくりについて

福島県立いわき翠の杜高等学校  
養護教諭 渡辺 瑞希

### 1 実践の内容及び方法

#### (1) 学び直し学習会「みどりベース」の創設

不登校など様々な理由から就学機会に恵まれなかった生徒や、学習面でのつまずきのある生徒に対して、学び直しの機会の確保や長期休業中の課題の支援を行う。

- ① 長期休業中の支援：日程を生徒へ周知し、参加した生徒がその日の学習内容を決め、それぞれの生徒の学習支援を行う。
- ② 考査期間中の支援：考査時間が午後からのため、午前に学習会を行い、考査内容の学習支援を行う。学習支援員を中心に、個別支援教育コーディネーター、特別支援教育コーディネーター、各教科担当者で支援を行った。特に長期休業中の支援については、教科の特性や専門的知識が必要であるケースが多いため、協力可能な教員で日程割り当てを行い、個別に学習支援を行った。

#### (2) 合理的配慮や福祉的就労に関する本校独自の「特別支援ファイル」の作成

- ① 合理的配慮が必要な生徒が増加し、個別の教育支援計画作成の流れをまとめて、校内統一した流れで合理的配慮の提供が可能となるようまとめた。
- ② 障がい者枠での就職や福祉的就労の生徒が増加し、雇用や契約までの流れや本校が関係する関係機関等についてまとめた。

①・②の内容を一つのファイルにまとめ、教員それぞれが書き込めるようにし、オリジナルのファイルができるように配布した。福祉的就労の面では専門的な情報も盛り込み、進路指導を進めていくうえで、教職員の不安が軽減できる内容とした。

#### (3) 校内研修の実施

昨年度より2年計画で校内研修を実施。年に2回研修を実施した。

##### <令和4年度>

- 8月 「発達障がい等を抱える生徒の福祉的就労までの流れ及び学校と関係機関のかかわり」  
講師 障がい者就業・生活支援センター 職員
- 2月 「生徒の特性に合った効果的な指導・対応方法について」  
講師 いわき教育事務所 指導主事

##### <令和5年度>

- 8月 3グループに分かれての研究協議
- ① 「発達障がい等を抱える生徒の福祉的就労の進路指導の流れについて」
  - ② 「発達障がい等を抱える生徒の問題行動に対する生徒指導の在り方について」
  - ③ 「発達障がい等を抱える生徒の学習指導について」
- 2月 8月の校内研修にて共有した情報をもとに、実践してみたことことの成果と課題の共有及びリフレーミング体験

1年目はインプットの年として、福祉的就労に関する知識、生徒の特性に応じた指導についての知識を深めるため、講師を招いて講話を実施した。

2年目はアウトプットの年として、それぞれが希望するグループにて日々の実践内容について協議を行った。

## 2 実践の成果

- (1) 長期休業中では、昨年度より多くの生徒が参加し、意欲的に取り組む姿がみられた。生徒それぞれのペースで学ぶことができるため、じっくり学習を進めることができた。また、多くの教職員が支援に携わることで、学校全体で学習会を行うことができた。

考查期間中では、苦手科目にも挑戦する生徒が多くなり、考查の成績が上がった生徒もいた。勉強の仕方が分からない、勉強自体が苦手といった生徒が多いが、生徒自身が勉強に取り組もう、テスト前に学習会には来よう、と少しずつ意識の変容が見られた。



- (2) 合理的配慮の提供までの流れや福祉的就労の事務手続きや契約までの流れが視覚化されることにより、教職員が見通しを持って、対応することができたと感じる。また、専門的な知識については、校内研修で深めた知識と併せて、活用できたのではないかと感じる。

また、前年度の事例を内容に盛り込んだことで、実際の事例を見ながら今後の流れを予想することができ、実績を記録として残していくことも大切であると感じた教職員が多かった。



- (3) 2年計画で実施した校内研修だが、研修内容を決定する際に教職員へ実施したい研修内容のアンケートを実施したことにより、ニーズを把握することができ、校内研修を充実させることができた。

1年目は、福祉的就労の流れや事例を「障がい者就業・生活支援センター」の職員から講話を聴くことで、より実践に活かすことができた。障がい者枠雇用や福祉的就労といった、今まで対応例が少なかったケースについて、専門的な立場から話を聴くことができたのは、今後の進路指導の充実にもつながった。生徒指導については、特別支援の視点を取り入れた生徒指導について新たに知識を深めることができ、さらに特別支援学校の教員より実際の生徒指導の内容を聴くことで実際の生徒指導に活かすことができた。

2年目は、それぞれ希望したグループに分かれて具体的な事例を基に研究協議を行い、それぞれのグループが意見を交わすことができ、今後の実践に活かせる協議となった。その後、実践内容や

課題を共有することで、成果があった実践や課題を次年度に活かせる内容となった。



### 3 課題及び今後の方向性

- (1) 昨年度より学習会を開始し、今年度2年目を迎えた。本来利用してもらいたい生徒の利用が少ない点では、今後の課題となっている。利用した生徒の満足度は高いため、今後も継続して行っていきたい。また、今年度より学習支援員やコーディネーターだけでなく、他の教職員も支援に加わったことで専門的な指導もできたため、支援する教職員についても、今年度同様としたい。
- (2) 本校独自のファイルを作成し、事例も含めた内容となっており、記録の蓄積を続ける必要がある。自由に書き込めるファイルとなっており、オリジナルのファイルが出来上がるが、まだファイルをどのように使用していくとよいのかが教職員の中でも理解に差があり、効果的に活用できていない場面がみられる。今後使用方法についても、どうしたら使用しやすか等、教職員へ聞き取りを行いながら、効果的な活用ができるようにしていきたい。
- (3) 今年度までは、発達障がいを抱えた生徒に対しての対応について2年計画で校内研修実施したが、本校の課題は発達障がいだけでなく様々な課題があるため、今後は別のテーマで実施を考えている。そのためにも、校内のニーズを改めて正確に把握したうえで、内容を決定し、必要に応じて講師の選定を行いたい。様々な課題を抱える生徒の対応ができるよう校内研修を実施し、生徒対応につなげていきたい。